

2016年度 協豊会関西地区 講演分科会活動

2016年度 協豊会関西地区 第1回講演会を開催

＜ラグビー日本代表前チームディレクター 稲垣純一 様＞

「ラグビーワールドカップ 2015 日本代表の戦い

～エディーJAPAN 誕生から最高の瞬間までの軌跡～」

2016年度協豊会関西地区第1回講演会（2016年7月19日（火）・於 住友クラブ3階大会議室）は、ラグビー日本代表前チームディレクター稲垣純一様をお迎えし、「ラグビーワールドカップ 2015 日本代表の戦い～エディーJAPAN 誕生から最高の瞬間までの軌跡～」をテーマにご講演を頂きました。

稲垣様は、1955年東京都のご出身で、中等部から大学卒業まで慶応のラグビー部に所属されていました。また、サントリー入社後は、サントリーラグビー部サンゴリアスの創設にご尽力され、初代主将を務められました。その後、日本ラグビーフットボール協会の理事等、日本ラグビー界を大きく牽引されています。

2011年の時点では日本人のほとんどが知らなかった日本開催の2019年ラグビーワールドカップ（RWC）をどう周知させるか、またRWCの後の日本ラグビーの未来のために何をなすべきかを関係者が考えた結果が「MOONSHOT（壮大な挑戦）」、それは「単なる10%の改善では無く、10倍の成功を目指す」という非常に高い目標を表す言葉でした。

この目標を達成するため、稲垣様に請われてヘッドコーチに就任した、日本人の特徴をよく知るエディー・ジョーンズ氏をはじめ、スタッフ・ドクター・トレーナーが選手のメンタル面も含めて確実にサポートしていく体制づくりや、それに応えて、体格で劣る日本ラグビーの選手たちが、日本人の弱みでもある自主性の無さや自己主張の出来ない性格を克服し、「全てにおいて正しい準備」と「極限のハードワーク」を実践し組織の結束力を高めていった過程をお聞きしました。

2015年の南アフリカ戦の勝利は奇跡でも偶然でも無く、勝つために選手・スタッフがこのように一丸で取り組んだ結果であり、「MOONSHOT」が達成された瞬間だったのです。

日本ラグビー界の歴史が変わった経緯を学び、スポーツの感動を共有することができた素晴らしい講演でした。



【講師の稲垣様】



【真剣に聴講する参加メンバー】